

罫線内は令和3年度学校経営計画の要点

1 今年度の取組と自己評価

(1)教育活動への取組と自己評価

①【教科活動】主体的学習姿勢の醸成

- ・生徒の実態を踏まえた主体的・対話的で深い学びを実現させる授業の実践
- ・国・数・英における少人数授業・習熟度別授業の実施によるきめ細かな指導の実践と進路希望に合わせた授業配置
- ・チャイム始業、授業規律確保、ICTを活用した授業、家庭学習の増加等による学習に向かう姿勢の確立と受験を意識した授業の実践

研究授業、相互授業参観、教科会等を通して学力スタンダードに基づく計画的な授業実践の検討を行い授業力の向上を図るとともに授業改善に取り組んだ。Classi、YouTube、Teams等を活用した教材及び教授法を研究し分散登校期間に対応した。

自宅学習時間調査をほぼ毎月実施し、結果をグラフ化して教室に掲示するなどにより意識啓発を行った。昨年度に比べ1年次と2年次ではやや増加し、3年次では減少していた。コロナウイルスの影響により大学受験のシステムも不明確であった中でいかにモチベーションを保つかが課題であった。

②【生活指導】TPOをわきまえる力と社会性の育成

- ・生徒理解と特別支援教育への理解に基づく生徒や保護者が相談しやすい体制づくり
- ・あいさつの励行、校内美化、時間厳守の徹底
- ・SNS利用の指導、豊かな人間性、人権意識、道徳心、公共性の精神の育成
- ・思いやりの心を育み、いじめの未然防止、早期発見、早期対応

校門での挨拶運動や日常生活を通して挨拶、遅刻、服装等の指導を実施した。1、2年次では時差登校の朝の時間を活用して読書活動を行い、豊かな人間性に資するとともに遅刻者を減らす取組につなげることができた。ほとんどの生徒が気持ちよく挨拶することができている。一方で学校行事や部活動が思うように実施できず、昼食時などの日常のコミュニケーションが抑制されるなどにより人間関係を始めとする悩み等によりストレスを抱える生徒も少なくなかった。

③【進路指導】進路挑戦力の醸成

- ・3年間を見据え各年次に応じた継続的・段階的進路指導の推進
- ・総合的な探求の時間(ブリッジ)による自己理解、自己実現、高い進路意識の推進と主体的な進路活動の促進
- ・模試結果、入試問題の分析・検討と授業、進路指導の検討及び工夫
- ・図書館の活用と情報教育の推進による知的探求心及び情報探索能力の向上

1年次、2年次からの系統的な進路指導を行うとともに、3年次生には進路部や教科担当者を中心に面接、論文指導等を行い、進路挑戦力を養う指導を丁寧に行った。受験生全員に対して能力や適性に応じて進路に挑戦させる指導を行うとともに、「勉強部」において外部講師による土曜講習を行った。

共通テスト受検者は134名とコロナ禍で大幅に減少した昨年とほぼ同じであったが、GMARCH合格者が26名で昨年より5名増えるなど、コロナウイルス禍においても対応し検討した。

大学入試改革とコロナ対応等により入試制度が複雑化していることから、情報収集と指導への活用を図り、意欲的に挑戦させる指導を進路部と年次が協力して行うことが課題である。

④【特別活動・部活動】文武両道の実践

- ・感染症対策を踏まえた学校行事の検討と特別活動の活性化、生徒の自治自立の精神の養成
- ・部活動の活性化とともに体罰等の根絶徹底を図る
- ・学習と部活動の両立の支援による文武両道の実践

昨年に続き合唱祭や宿泊行事を始めとする様々な行事が新型コロナウイルス対策により中止となったが、アメリカン・サマー・キャンプの代わりに校内におけるウィンター・ワーク・ショップを実施し、文化祭と体育祭については実行委員の生徒を中心に、文化祭は動画制作、体育祭は種目を限定して年次ごとに実施する形式で行い、

生徒の主體的な活動を維持した。また、部活動においては活動が制限されながらも、放送部が全国大会出場、写真部、卓球部、陸上部が関東大会出場を決めた。

技術指導ができる指導者が転出する中で指導ができる教員が確保できない部が多く、少しずつ改善を図りつつあるものの、指導者の確保が緊急かつ重大な課題である。

⑤【開かれた学校づくり】上水高校認知度・好感度のUP

- ・教育理念や特色を広く発信し広報活動の充実を図る
- ・ホームページの充実、学校案内、学校見学、授業体験、部活動体験、出前授業等を実施し、本校の存在感を高める
- ・地域や中学校・大学との連携、学校開放事業等による地域貢献等による地域に根ざした地域から信頼を得る学校の実現

新型コロナウイルス対策のために授業体験や部活動体験が思うように実施できず、学校説明会や日常の学校見学は人数を制限して実施したが、昨年度に続いて個別相談会を実施したほか、昨年度大幅に増やしたホームページの更新回数をさらに増やすなど広報活動の充実を努めた。

学校評価アンケートからはあいさつ、時間や規則を守ること、服装や頭髪についての指導が生徒や保護者にも理解されているが、地域からの評価はやや下がった。

また、地域の方を対象とした公開講座と施設開放は制限され生徒がボランティア参加する予定であった地域行事も中止となった。

昨年大幅に増加した入試倍率は、学級増となったものの平年並みを維持した。

⑥(健康づくり・環境づくり・防災教育)教育環境の整備

- ・校内美化の徹底、潤いのある環境づくりと安全で快適な学習環境の提供
- ・学校保健計画に基づき心と体の健康づくりの推進と気力・体力の向上、感染症への正しい対処
- ・思いやりの心の育成、教育相談等の充実と悩みへの早期対応、いじめや自殺の防止及び早期発見
- ・地域と連携した防災訓練や避難訓練の実施による防災教育の推進と充実

ゴミ箱の削減により感染症対策と美化意識の向上を図った。

通常の学校生活を制限される環境にあって生徒の心の悩みの深化がみられ、カウンセラーと保健部、年次担任の連携・協力体制の綿密化に努め、カウンセラー及び養護教諭による校内研修を行い、教育相談委員会を毎週の定例化とする等により生徒理解、アレルギーを持つ生徒への対応等の情報と意識の共有を図った。

地域と連携した防災訓練や避難訓練の工夫等による実践的な防災教育の充実が今後の課題である。

⑦【経営企画室】

- ・経営企画室からの提案等の具現化による経営企画室の学校経営参画の推進
- ・施設設備の点検・管理や迅速な修繕等をとおしての安全確保、環境整備、校内美化の推進
- ・適正な予算の編成と執行、会計管理
- ・正確かつ迅速な業務遂行により事故のない学校経営に資する

大幅な行事変更などに対応した予算の編成など、新型コロナウイルス対策に関わる様々な対応を提案、実行した。配布書類にミスが判明するなどがあったところから、正確な書類作成、点検などの徹底が課題である。

⑧【学校運営・組織体制】組織体制、実践取り組みの継続と発展

- ・企画調整会議と各部会、経営企画室との連携による全教職員が関わる学校経営
- ・大学入試改革、学習指導要領改訂に伴うカリキュラム、学校行事の検討
- ・個人情報の適切な管理、体罰の根絶と服務事故の未然防止の徹底
- ・効率的な職務遂行等による勤務時間外在校等時間の縮減、ライフ・ワーク・バランスを意識した働き方改革の推進
- ・図書館業務委託業者との連携と組織的な図書館運営

服務事故防止に向けて日常的に注意喚起し、提出物の管理等に改善を図ってきたが、昨年度に引き続き個人情報取扱いに関わる事故が発生した。また、昨年度に引き続き分散登校などの影響により授業計画の見直し、自宅学習と対面授業の準備、生徒面談などで業務量が増加した。

職場内の適切なコミュニケーションを促進し、事故を他人事と捉えず自らの業務を見直す意識や新しいシステム、端末及びSNS活用等について情報を共有し、協力しあい組織的に取り組むことが課題である。

⑨【特色ある学校づくり】

- ・英語コミュニケーション能力の育成、国際理解教育及びオリンピック・パラリンピック教育の推進
- ・高大連携やオープンキャンパスの活用、進路意識の向上と進路挑戦力の育成

- ・学校設定教科「表現」の充実・改善による表現力の育成
- ・思いやりの心と豊かな人間性の育成及び人権教育の推進
- ・学習と部活動、学校行事の両立

1年次生のアメリカン・サマー・キャンプ、2年次生の進路探索研修旅行、合唱祭など、いくつかの特色ある行事が新型コロナウイルス感染症対策のために中止となり、部活動にも大きく影響した。

開催方法の変更や代替行事の実施など、できる限り行事を行えるよう工夫した。新型コロナウイルス感染防止のため、地域や大学との連携を図る取組はできなかった。

(2) 重点目標への取組と数値目標に対する自己評価

- ①教員の授業力と生徒の学習意欲の向上
 - ・授業公開日における相互授業参観（全教員が他の授業を参観）
 - ・指導教諭による研究授業参観（5教科は各1名以上）
 - ・家庭学習時間（前年度の自宅学習時間を上回る）
 - ・生徒の授業満足度（前年度の満足度を上回る）

○新型コロナウイルス対策のため授業公開週間は実施できず、研究授業の参観も一部制限するなど授業を参観しにくい状況であり、指導教諭の研究授業参観も実現が難しかったが、ほとんどの教員が他の教員の授業を参観した。

○昨年度は授業が再開された後半に毎月家庭学習時間調査を実施し、今年度はほぼ毎月実施した。昨年度後期に比べて1年次と2年次ではやや増加しているが3年次では減少した。大学入試改革に加えて新型コロナウイルス感染防止対策のために入試の形態が不明確な時期が長く、3年次生はモチベーションの維持が難しかったことが原因と考えられる。

○生徒による授業評価は昨年度に続き本年度も分散登校等の時期を考慮して1回のみ実施した。6教科の平均で「分かりやすく教えてくれ考えさせてくれる」と「興味関心を持たせてくれ意欲、関心をわかせてくれる」の肯定的回答がそれぞれ約3ポイントと上がり87%と85%であった。急に臨時休業や分散登校が続いた昨年度は6ポイントの大幅ダウンであったが、今年度は半分の3ポイント回復した。今年度も昨年度同様に通年にわたり40分の短縮授業であった。

- ②夢をもち進路希望を高く掲げる進路への挑戦力の向上
 - ・現役進路決定率（92%以上）
 - ・国公立、難関・有名私大合格者（国公立、早慶上理GMARCHに現役で30人以上）

○現役進路決定率は、93%であり、目標を達成した。

○現役の大学合格者数は、国公立が4名（昨年8名、一昨年2名）、早慶上理が2名（昨年2名、一昨年3名）、GMARCHが27名（昨年22名、一昨年24名）であり合計で33名と一昨年、昨年に続き増加した。

- ③礼節、心身の健康、思いやりの気持ち、コミュニケーション能力の向上
 - ・遅刻者の減少（年間遅刻回数800回以下）
 - ・欠席者の減少（年間皆勤生徒数合計230名以上）

○年間の全校生徒の延べ遅刻回数は949回であり、928回で大幅に超過した昨年度にも増して増加した。理由としては、HR開始の10分前に校門で行っていた遅刻指導を一昨年度からやめたこと、昨年度と同様に年間を通して時差登校を実施したこと、登校前に検温と健康観察結果をSNSで入力して毎朝報告するようにしていること、体調に不安がある場合は無理をせず健康観察や通院などの対応を行うように指導していることなどが考えられる。今年度も特定の生徒が繰り返して遅刻をする傾向があり、今後も遅刻数を増やさない取組とともに特に遅刻の回数が多い生徒への対応が課題である。

○年間の皆勤者数は200名であり目標に達しなかった。

- ④文武両道の実践と部活動の推進
 - ・都大会ベスト16以上、関東大会出場、全国大会出場（7部以上）

○全国大会連続出場の放送部、関東大会出場の陸上競技部、卓球部、写真部を始め、都大会ベスト16以上が合計7部で目標を達成した。それ以外の部についても活動が制限される中において工夫して活動した。

- ⑤広報活動の充実
 - ・SNSを活用した広報活動（ホームページ更新及びツイッター発信 計210回以上）
 - ・学校見学会、学校説明会、上級学校訪問、体験授業、部活動体験等での中学生及びその保護者

来校者数（1,800名以上）

・入学者選抜倍率（推薦3.2倍、一次1.4倍）

○ホームページ更新回数は270回を数え目標を達成した。

○学校説明会や学校見学会は事前申込制で人数を制限しての実施となり、直ぐに予約が埋まってしまう状況であった。来校者数は昨年の1,800名からさらに減少し約1,650名であった。しかし入試倍率は学級減もあって大幅に上昇した昨年度から下がったものの、学級増であったにもかかわらずそれ以前の倍率をやや上回る水準で目標に達した。

⑥サービス事故の防止

・サービス事故発生件数（0件）

○個人情報に関わる事故が1件あったほか、危うく事故となる事案が複数発生した。個人情報の取扱いに関する注意喚起を他人事とせず、自らの業務改善を確実に実行できるよう引き続き事故防止のための意識向上、業務改善を徹底していく。

⑦職員の働き方改革

・職員の勤務時間外在校時間の縮減（総時間で前年を下回る）

○新型コロナウイルス感染症対策により分散登校となった期間は、オンラインによる授業と対面による授業の準備が必要となり、課題作成やその評価、生徒の面談など様々な業務の対応があり在校時間がむしろ増加する傾向にあった。昨年度とウイルス対策の対応が異なることから比較は難しいが、昨年度と本年度の臨時休業、分散登校期間を除いた6か月の比較では、昨年比83%で目標を達成した。

2 来年度以降の課題と対応策

- (1) 本校の指導方針や特色等の共通理解を再確認し、現在の上水高校に求められているニーズに対応し新学習指導要領、大学入試改革に対応した指導を実践していく。
- (2) 各教科による授業改善のOJTを継続させ、主体的、対話的で深い学びを実現する授業改善を行う。
- (3) Office365の活用を進めオンラインによる授業を中・長期的に計画し、感染拡大による臨時休業や分散登校に備えるとともに、生徒一人1台端末を踏まえたICTを活用した授業や家庭学習を促進させ新しい授業形態を構築する。
- (4) 長期休業中の講習や土曜講習を充実させ、そのために必要な予算措置を行う。
- (5) 学校説明会、学校見学、ホームページ等の充実を図るなど、広報活動を組織的、効果的に推進する。
- (6) 挨拶の励行、表現力の育成、国際理解教育、進学特活型等の本校の特色を維持しさらに進化させる。
- (7) 奉仕・ボランティア活動をはじめ、地域清掃、地域祭りへの参加、地域と協力した防災対策などにより「地域に根ざし地域から信頼を得る学校」を目指す。
- (8) 職員の意識改革、業務改善をととしてサービス事故防止を徹底する。
- (9) 効率的な業務遂行に努め、勤務時間外在校時間の短縮を進める。
- (10) 職員間の適切なコミュニケーションを図り、円滑に業務が遂行できる風通しの良い職場環境を作る。